

安倍元首相銃撃事件の背景 孤独や孤立に、新しく温かい空気を

7月、奈良市内で安倍晋三元首相が街頭演説中に、元海上自衛隊員の容疑者に銃撃され死亡しました。内閣総理大臣経験者の襲撃による死亡は戦後初で、民主主義を暴力によって揺るがす許されざる凶行として、国内のみならず国外でも大きく報道されました。

孤独や孤立が引き起こすもの

調べによると、容疑者の母親が宗教団体に対し、父親の死亡保険金や、自宅の売却代金など多額の献金を繰り返し、家庭が崩壊した恨みから犯行に至ったと報道されています。また、容疑者は長期間の孤独と孤立により、社会に対して失望していたとのことでした。

近年、孤独や孤立、困窮などから引き起こされたと思われる事件として、北新地放火殺人事件(クリニックに放火し26人死亡)、京都アニメーション放火殺人事件(スタジオを放火し36人死亡)、秋葉原無差別殺傷事件(歩行者天国にトラックで突っ込み7人死亡)などがあげられます。

容疑者のツイッターから

どの事件も決して許されず、厳しく刑事責任は問われるべきですが、事件の背景には孤独や孤立という社会的課題が垣間見えます。つながりの希薄化という課題を解消するため、新しく温かい空気を私たちが作り上げたいものです。

容疑者のツイッターには次の内容が記されていました。

「なぜかこの社会は、最も愛される必要のある脱落者は、最も愛されないようにできている。」